

平成31年度 学校自己評価システムシート(県立杉戸高等学校)

目指す学校像	一人ひとりの能力を確実に伸ばし、夢の実現を支援する学校
--------	-----------------------------

重点目標	1 進取の気概を持ち、社会に貢献できる人材を育成する 2 総合的な知の習得を行う 3 地域との交流を深めた教育活動を行う
------	--------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	事務局(教職員)	8名
	生徒	3名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	策定したグランドデザインに基づいた取組を本年度以降推進していくことが必須となる。 グランドデザインに掲げる「進取の気概を持ち、社会に貢献できる人材を育成する」ための具体的取組に着手することが急務である。	○進取の気概を育成するために、授業を改善する	①対話する機会を設けた授業を展開し、他者と自己との比較などから、新たな問いや高次の気づきを醸成する。 ②授業改善を通じて、主体的に学ぶ姿勢を育てる。 ③目的意識を持ち進路実現できるよう支援する。	①生徒アンケートで「授業中に対話の機会が設定されている」の回答が8割を上回ったか。 ②生徒アンケートで「主体的に学習に取り組んでいるか」の回答が8割を上回ったか。 ③卒業時アンケートで第一志望への合格が6割を上回るか。	評価項目の達成状況はほぼ達成できた。 ①生徒アンケートで「授業中に対話の機会が設定されている」の肯定的回答が86.7%(12月実施)。 ②生徒アンケートで「主体的に学習に取り組んでいるか」の肯定的回答が74.5%(12月実施)。 ③卒業時アンケートで第1志望への合格が6割であった。(3月11日実施)	A 作成したグランドデザインの柱の一つ「対話を取り入れた授業の展開」は、浸透しつつある。次年度は、いかに「深い学び」のある「主体的・対話的」授業を展開するか、いかにあきらめさせない進路実現につなげるか、すべての教育活動で取り組んでいく必要がある。
2	策定したグランドデザインに基づいた取組を本年度以降推進していくことが必須となる。 グランドデザインに掲げる教育重点目標の「総合的な知の習得」ための具体的取組に着手することが急務である。	○総合的な知を育成するために、学んだことが活かせる教育活動を展開する	①新学習指導要領とグランドデザインの趣旨を融合した教育課程を編成する。 ②「総合的な探究の時間」の充実を図り、教育活動全体との連鎖を深める。 ③部活動や学校行事に主体的に参加する生徒を育てる。	①新学習指導要領に基づく教育課程を年度末までに編成する。 ②生徒アンケートで「総合的な探究の時間」に係る満足度が8割を上回るか。 ③生徒アンケートで「部活動に主体的に参加した」「学校行事に主体的に参加」の回答がともに8割を上回るか。	評価項目の達成状況は、ほぼ達成できた。 ①55分授業の検証と併せて協議を重ね、総合的な知を育成するための新教育課程の編成を行った。 ②生徒アンケートで「総合的な探究の時間」に係る満足度は62%(12月実施)。 ③生徒アンケートで「部活動に主体的に参加した」の肯定的回答が72.6%、「学校行事に主体的に参加した」の肯定的回答が87.5%(12月実施)。	A 今年度から始まった「総合的な探究の時間」は、先進事例を取り入れ、計画的、組織的に実施することができている。生徒の満足度は6割と目標に達しなかったが、もっと学びたいという気持ちの表れと考え、改善の余地があるとして、今後、生徒の意欲や達成感を高めるプログラムを考えていく。
3	地域交流等に参加する生徒は増えている一方で、地域交流等に消極的な生徒もいる。 グランドデザインに掲げる「社会に貢献できる人材を育成する」には、在学中から地域との交流に参加し、地域から学ぶ姿勢を身につけていくことが重要である。	○社会への貢献力を育成するために、積極的に地域と交流する	①地域や異校種との交流を通じて、主体性や協調性、共感性などを育てるとともに、社会を知る一助とする。 ②地域に根差した探究活動を実践する。 ③生徒募集活動などに在校生を積極的に活用し、発信力や愛校心などを育てる。	①交流等に参加した生徒の合計数が全校生徒数を上回るか。 ②地域の課題を探究していく活動の中間発表会時点における在校生の自己評価から検証する。 ③学校見学会等への参加者アンケート記述回答に基づく検証と生徒、保護者アンケートで学校満足度が生徒7割、保護者9割を上回るか。	評価項目の達成状況は、ほぼ達成できた。 ①地域との交流等に参加した生徒の合計数は715人(12月現在)。 ②中間発表会は、個人で設定したテーマのポスターセッションのグループ発表を行った。生徒の振り返りによると、「意見交換をすることによってより広い視野でみることができるようになった」「コミュニケーション力が上がった」という感想があった。 ③参加アンケートからは概ね高評価を得ている。生徒アンケートで学校満足度は生徒68.9%、保護者アンケートで保護者90.7%(12月実施)。	A 杉戸第二小学校との交流事業、高齢化する地域の自治会への行事の参加は、とても喜ばれた。地域に貢献し、地域から学ぶ姿勢が、本校の生徒に身につけさせたい5つの力の育成につながることを改めて明確にしている。 「総合的な探究の時間」については、生徒自身が、地域の課題について新しい「問い」や「気づき」を生み出せるように取り組んでいく。

学校関係者評価	
実施日(令和2年2月10日)	
・(授業見学後)きめ細かな指導、工夫が感じられる。「対話」による授業は、楽しく、やる気を出させている。「対話」をすることで、積極的な態度が身につくのではないか。 ・一人ひとりの能力を確実に伸ばすための工夫と教員の努力が伝わってきた。 ・授業改善はされているが、生徒の間に意識の差があるように思う。 ・進路について学校で時間をかけて指導してもらっているのはありがたい。進路実現については、早期から様々な情報を得させて、考えていかせることが必要だと思う。	
・「総合的な探究の時間」について、研修会や先進校視察などを行い実施していることは素晴らしい。 ・将来やって良かったと思える「総合的な探究の時間」になって欲しい。 ・部活動、体育祭、文化祭など生徒が積極的に取り組んでいる印象がある。 ・学校で学び、家庭で躰を行い、地域で育てる みなで一丸となって教育していくことが求められるだろう。	
・年代の違う人たちと接することで感じたり、得ることもあり、良い経験をしていると思う。 ・地域を大切に思い、交流等に参加している生徒数が増えていることが素晴らしいと思う。特に、保護者の96.3%が安心して学校に通わせているという評価は感銘を受けた。 ・親としては安心して通わせることができる学校だと思っているが、学校の知名度が低いと感じる。この学校を知らないから選ばれないという状況があるのではないかと。 ・制服の評価が低いので、将来制服を変えたらどうか。生徒会から提案したい。	